

やましろうみなみしんぞういんあと
山代郷南新造院跡

第7次発掘調査現地説明会

2018年10月13日

松江市まちづくり文化財課
埋蔵文化財調査室

①山代郷南新造院跡（四王寺跡）について

山代郷南新造院跡は松江市山代町に位置する古代寺院の遺跡です。天平5（733）年に編纂された『出雲国風土記』には、十か所の「新造院」の記載があります。そのうち、意宇郡の山代郷（現在の松江市山代町・大庭町を中心とした地域）には北新造院（来美廃寺）と南新造院（四王寺）の二つがありました。『風土記』にはお寺を造営した人物の名前も書かれており、南新造院は出雲臣弟山という人が建立しました。このように奈良時代に編纂された書物に登場するお寺が、実際に遺跡として見ついていること、また建立した人物が分かっているというのは全国でもとても珍しいことです。山代郷南新造院跡は県の史跡に指定されています。本年は、昨年追加指定された南側の土地の発掘調査を行いました。

『出雲国風土記』 意宇郡条

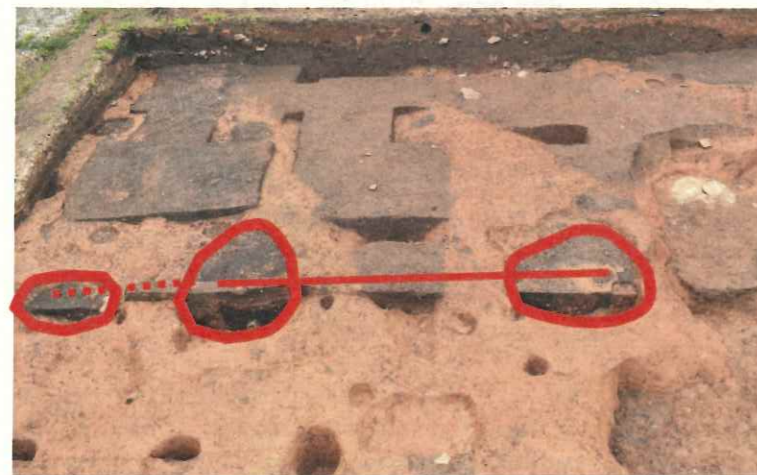
新造院一所、山代郷の中にある。郡家の西北二里（1.1km）の所にある。教堂を建立している。（住僧が一人いる。）飯石郡少領の出雲臣弟山が造営した。



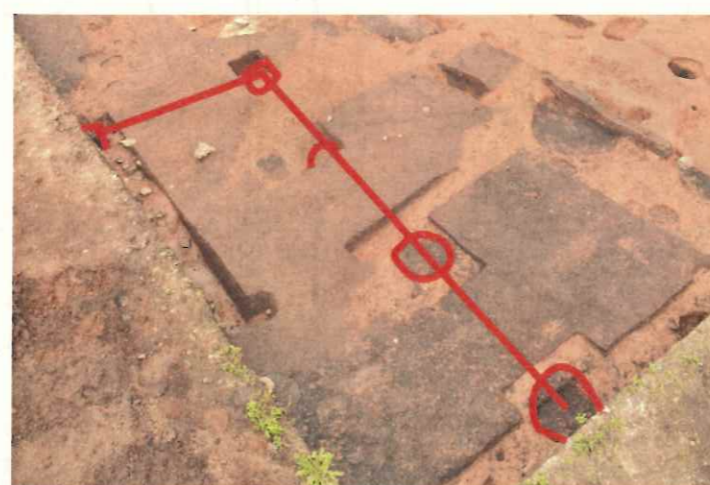
南新造院跡から出土した軒丸瓦
（平成28年調査出土）

②検出した門跡と掘立柱建物跡

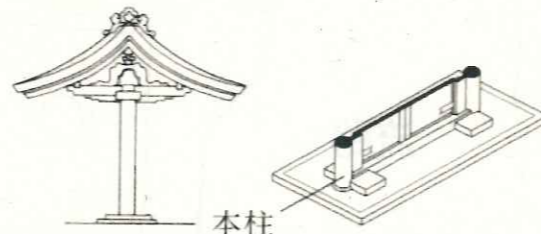
調査の結果、調査区の東側で直径が1mを超えるような大きな柱穴が2つ見つかりました。北側で見つかったお寺の中心施設から南にあり、お寺の出入り口である門跡と考えられます。何度か建替えがされており、柱を抜き取った痕から瓦が出土しました。また、南側では東西に並ぶ4つの柱穴も見つかりました。門跡とは柱の並ぶ方位が異なり、また、柱穴が掘りこまれた土層が門跡よりも下層であることから、門跡より古い時期の建物であることが分かります。西側の調査で見ついている2つの建物跡と柱の方向がそろっており、新造院ができる前にはこの場所に大型の建物が3棟建っていました。



見つかった門跡（北より）



きれいに柱が並ぶ建物の痕跡（南東より）



本柱
門の想像図
（文化庁2013『発掘調査のてびき—各種遺跡調査編—』）

掘立柱建物ってどんな建物？
掘立柱建物とは、地面を掘った穴の中に建物の柱の根元を入れ、柱と穴の隙間に土を埋め戻して柱を固定する工法の建物です。掘立柱建物のほかに、地面を少し掘り下げて床面を作る竪穴建物や、地上の石の上に柱を建てる礎石建物など、工法によって様々な種類の建物があります。



調査地全景（南より）



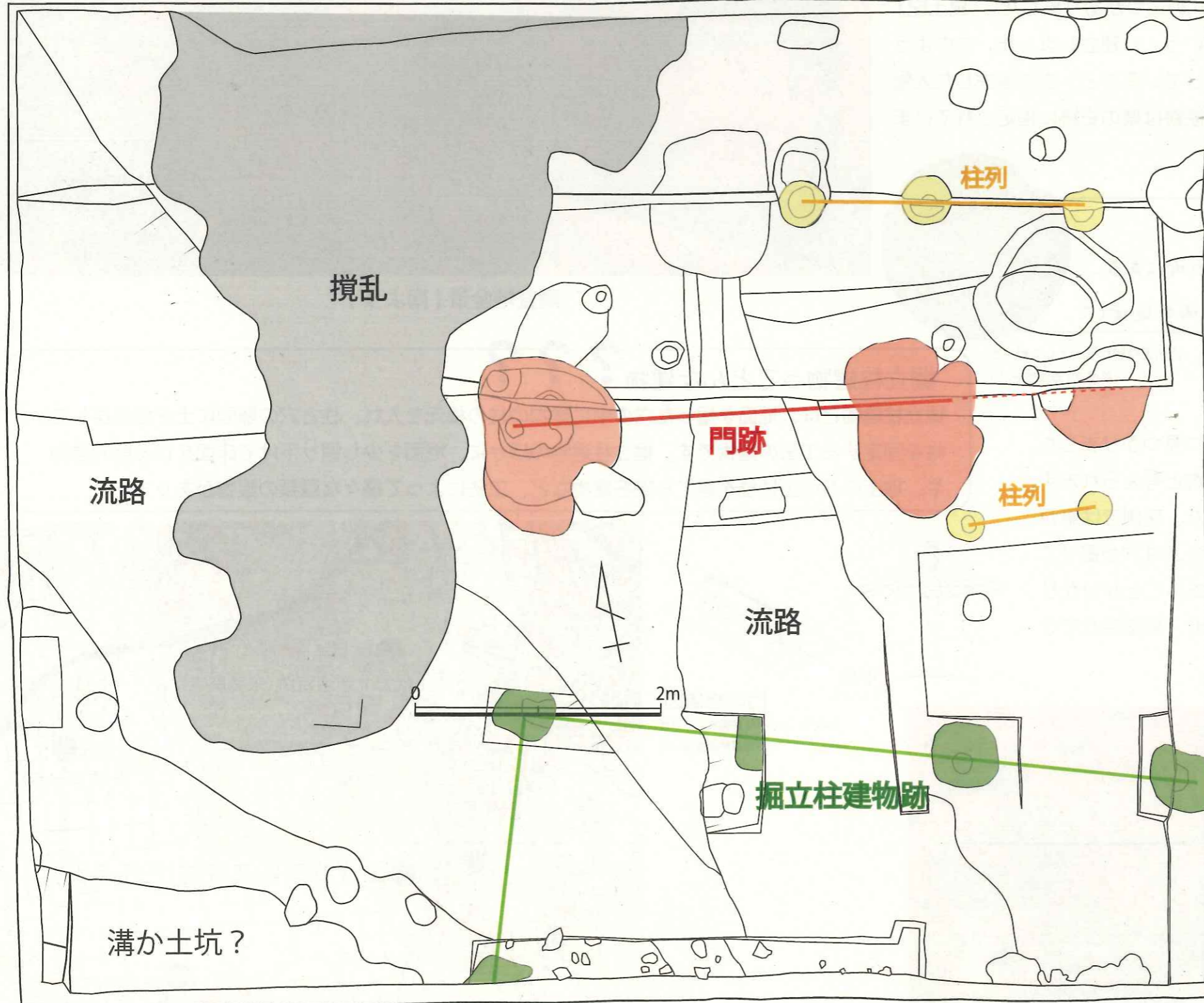
遺跡位置図 (S:1/25,000)

③出雲臣弟山という人物

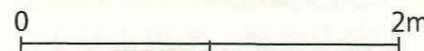
出雲臣弟山とは南新造院を建立した人物です。出雲臣氏は出雲国の豪族で、中央より出雲国造という役職に任命されていました。『風土記』の編集も出雲国造に任されていました。出雲臣弟山は『風土記』が編纂された13年後の天平18(746)年に出雲国造に任命されます。中央から地方の政治を任される権力のある人物であったことが分かります。

④出雲臣弟山の居館跡？

平成28(2016)年の調査では2棟の掘立柱建物跡が見つっています。そのうち西側の建物跡は柱穴が大きく、大型の建物であったことが想定されます。これらの建物は、今回の調査で見つかった建物跡と北側の柱列がきれいに並び、3棟の建物は同時期にあったものと考えられます。出雲臣弟山の居館として使われていた可能性があります。

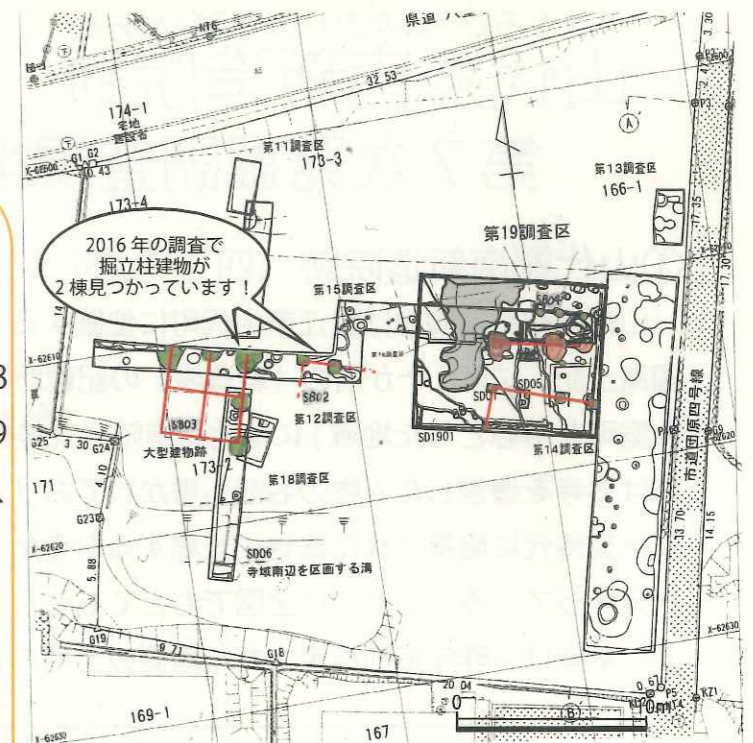


第19調査区平面図 (S:1/40)

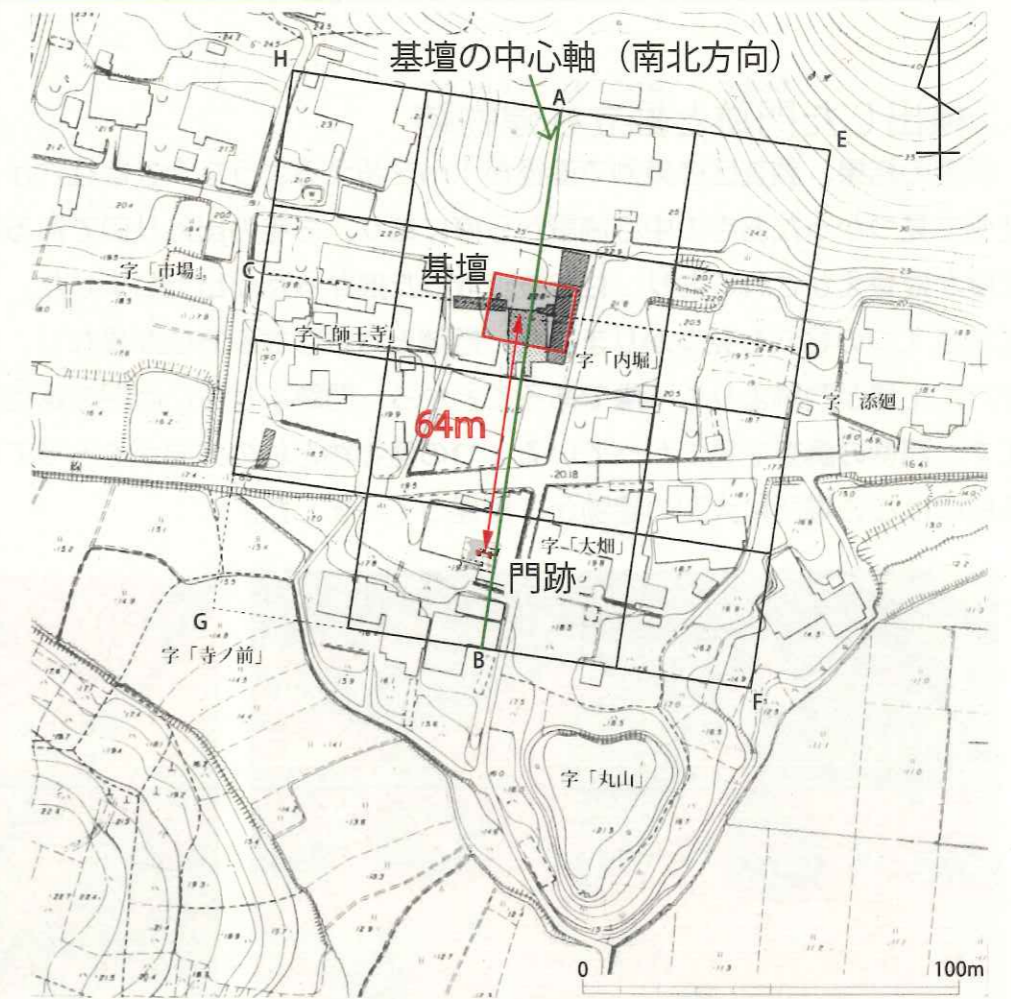


お寺の 中心施設の発見

昭和59(1984)年、63(1988)年、平成5(1993)年の3回の調査で、礎石建物の基壇跡が発見されています。お寺の中心施設と考えられ、この建物の中心から今回見つかった門跡までおよそ64mの距離があります。



門跡と3棟の掘立柱建物跡 (S:1/400)



基壇と門跡との位置関係 (S:1/2000)

(花谷浩 2014「山代郷南新造院跡(四王寺跡)再考」『出雲弥生の森博物館研究紀要』第4集より、一部改変)